



2020年3月期 中間決算説明会 (第2四半期累計)

2019年11月25日

 **ワイエイシーホールディングス 株式会社**

(証券コード: 6298)

<http://www.yac.co.jp>

▲ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼン資料で述べる将来の当社に関する見通しは、現時点での情報を元に作成したものです。

当社グループのお客様である半導体等の業界は技術革新のスピードが速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、各業界市況、設備投資の動向は、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。



Contents

1. 2020年3月期中間連結決算の概要

…………… 取締役財務本部長 島山 督

2. ワイエイシイグループの今後の展望

…………… 代表取締役社長 百瀬 武文

3. 質疑応答



1. 2020年3月期中間連結決算の概要

…………… 取締役財務本部長 畠山 督

■前年同期比大幅減収・減益となりました。

<メカトロニクス関連事業>

- ・HDD及び太陽電池関連が好調
- ・電子部品市場の冷え込みにより、キャリアテープ等が低調

<ディスプレイ関連事業>

- ・大口案件の設備投資時期の遅れ
- ・価格競争の激化に加え、不具合対応により利益圧迫

<産業機器関連事業>

- ・国内クリーニング市場は厳しい状況が続く
- ・中国市場は成長基調

<電子機器関連事業>

- ・電力会社向けの大口需要が一巡
- ・人工透析装置の販売が好調に推移

1-2 事業結果



(単位:百万円)

	2019年3月期 第2四半期 連結累計期間	2020年3月期 第2四半期 連結累計期間	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高	15,977	11,952	△4,024	△25.2%
営業利益 (営業利益率)	326 (2.0%)	△553 (-)	△880	-
経常利益	428	△622	△1,051	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	161	△710	△871	-
1株当たり 四半期純利益(円)	17.98	△78.71	△96.69	-
研究開発費	227	244	16	7.4%
設備投資額	874	112	△762	△87.2%
減価償却実施額	289	281	△7	△2.6%

前年同期は富士工場新設及びエレックス新工場取得

1-3 事業別売上・利益



(注)前年同期は現在のセグメントに合わせて再集計しています。

(単位:百万円)

		2019年3月期 第2四半期 連結累計期間	2020年3月期 第2四半期 連結累計期間	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	備考
メカトロニクス 関連	売上	4,064	4,272	208	5.1%	①米中貿易摩擦の影響により半導体関連が苦戦 ②HDDが牽引
	利益	67	78	11	17.4%	
ディスプレイ 関連	売上	7,790	3,521	△4,269	△54.8%	①設備投資時期の遅れ ②価格競争の激化 ③不具合対応によるコスト
	利益	△32	△566	△534	—	
産業機器 関連	売上	699	947	248	35.6%	
	利益	△80	△13	66	—	
電子機器 関連	売上	3,423	3,211	△211	△6.2%	①電力向け大口需要一巡 ②人工透析装置の販売好調、開発投資により利益減
	利益	188	△98	△287	—	
HDその他	利益	183	46	△137	△74.8%	
合計	売上	15,977	11,952	△4,024	△25.2%	
	利益	326	△553	△880	—	

1-4 事業別受注額・受注残 (連結ベース)



(注)前年同期は現在のセグメントに合わせて再集計しています。

(単位:百万円)

		2019年3月期 第2四半期 連結累計期間	2020年3月期 第2四半期 連結累計期間	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
メカトロニクス 関連	受注額	5,889	4,790	△1,108	△18.8%
	受注残	4,889	3,760	△1,128	△23.1%
ディスプレイ 関連	受注額	3,382	750	△2,632	△77.8%
	受注残	12,981	5,061	△7,920	△61.0%
産業機器 関連	受注額	809	1,002	192	23.8%
	受注残	176	121	△55	△31.1%
電子機器 関連	受注額	3,629	4,417	787	21.7%
	受注残	2,670	2,478	△191	△7.2%
合計	受注額	13,720	10,960	△2,760	△20.1%
	受注残	20,717	11,422	△9,295	△44.9%

1-5 貸借対照表のレビュー



<資産>

(単位:百万円)

	2019年3月	2019年9月	増減額	備考
現預金	8,032	5,342	△2,690	
売上債権	14,366	11,878	△2,488	売上の減少
棚卸資産	8,968	8,434	△534	
その他流動資産	1,494	1,085	△409	
固定資産	8,781	8,714	△67	
資産合計	41,645	35,455	△6,190	

<負債・純資産>

(単位:百万円)

	2019年3月	2019年9月	増減額	備考
仕入債務	8,157	5,326	△2,831	売上の減少
その他流動負債	9,390	7,733	△1,657	前受金の減少
固定負債	8,835	7,976	△859	
純資産	15,261	14,418	△843	
資産合計	41,645	35,455	△6,190	

1-6 キャッシュフローのレビュー



(単位:百万円)

	2019年3月期	2020年3月期 第2四半期 連結累計期間	主な増減要因	
営業活動によるC/F	△1,505	△1,934	増加	売上債権の減少
			減少	仕入債務の減少、前受金の減少
投資活動によるC/F	99	△12	増加	
			減少	
財務活動によるC/F	1,328	△681	増加	
			減少	長期借入金の返済
現金及び現金同等物の 期末残高	7,898	5,242	前年度末比2,656百万円減少	

2-1 業績予想及び配当の修正について

1. 2020年3月期通期業績予想数値の修正

(単位:百万円)

	前回発表 (2019.5.14)	今回 修正予想	増減額	(ご参考) 前期実績
売上高	36,000	30,000	△6,000	36,025
営業利益 (営業利益率)	2,000 (5.6%)	500 (1.7%)	△1,500	1,842
経常利益	1,900	400	△1,500	1,852
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,200	200	△1,000	1,094
1株当たり 当期純利益(円)	133.14	22.12	△111.02	121.68

2. 2020年3月期通期配当予想の修正

(単位:円)

	前回発表 (2019.5.14)	今回 修正予想	増減額	(ご参考) 前期実績
年間配当金(円)	24.00	20.00	△4.00	20.00

2-2 業績予想修正(事業別売上高)

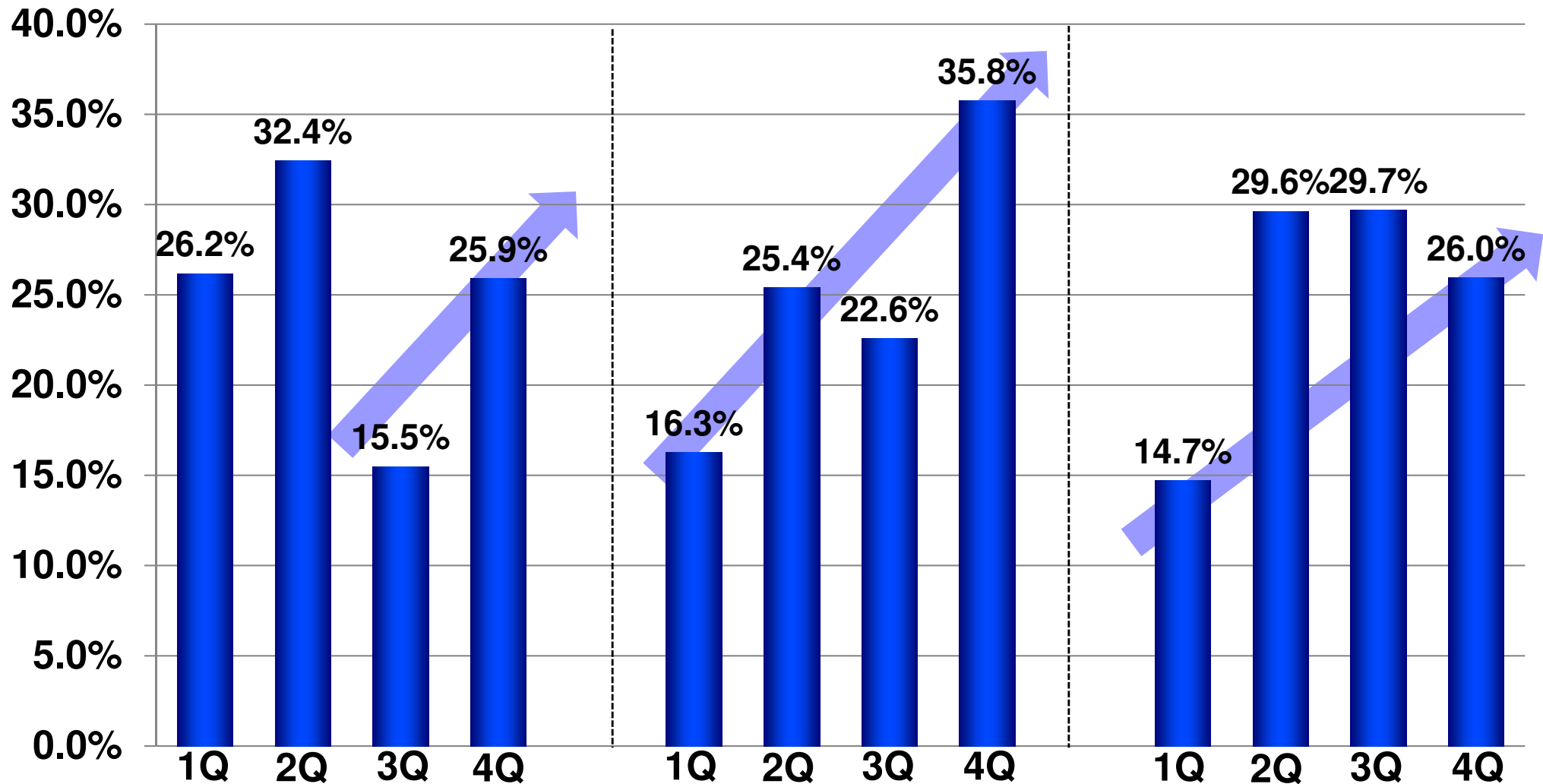


2020年3月期通期業績予想数値の修正

(単位:百万円)

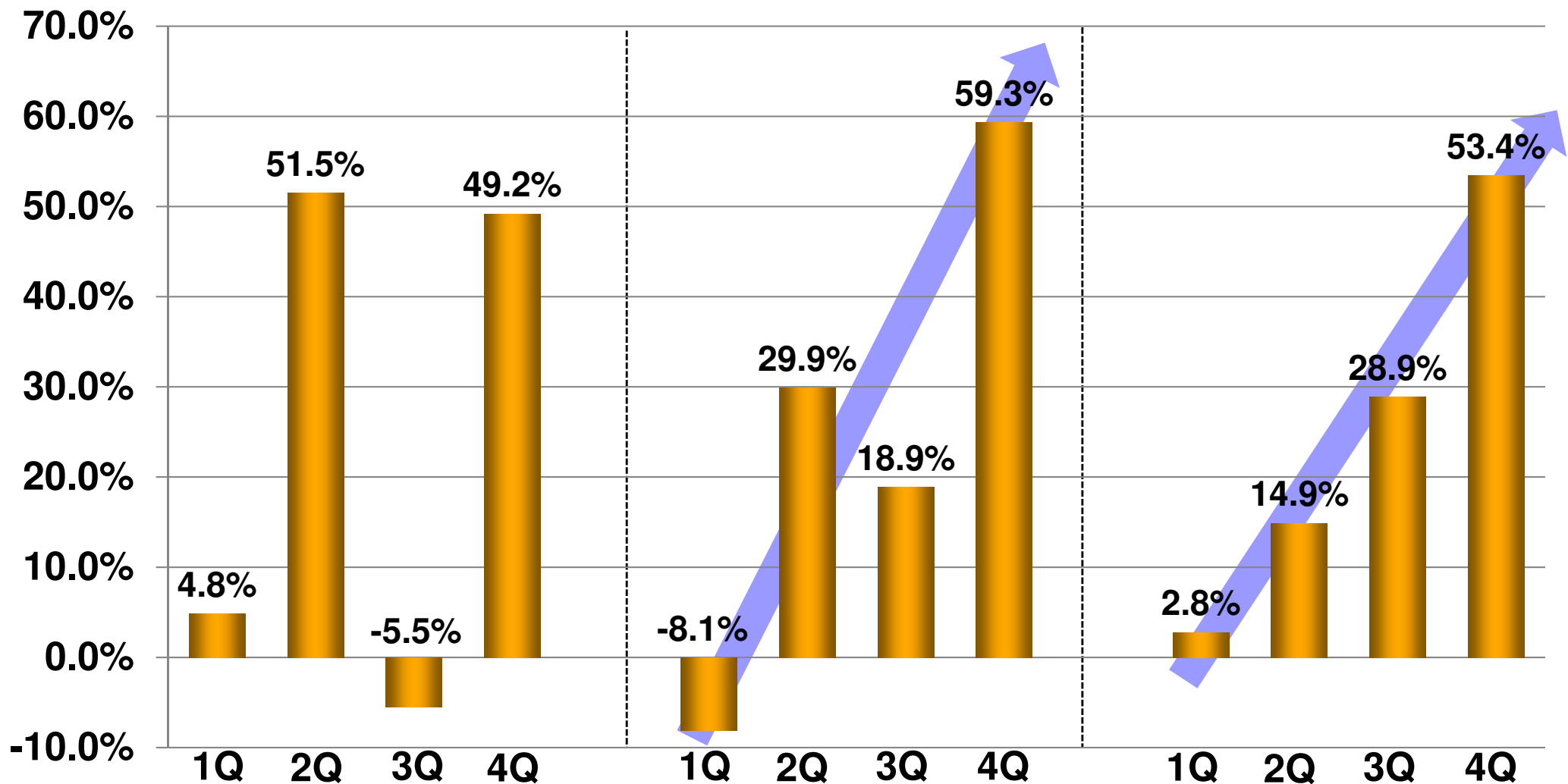
	前回発表 (2019.5.14)	今回修正予想	増減額	備考
メカトロニクス 関連	14,000	11,800	△2,200	米中貿易摩擦の影響により、半導体、電子部品関連を中心に設備投資時期が遅れている。
ディスプレイ 関連	10,500	6,100	△4,400	米中貿易摩擦の影響により、大口顧客の設備投資時期が遅れている。 不具合対応は年度内終結の見込。
産業機器 関連	3,500	4,300	800	中国市場向け装置販売が好調に推移。
電子機器 関連	8,000	7,800	△200	人工透析装置が好調に推移し、ほぼ当初予想通り。
合計	36,000	30,000	△6,000	

2-3 過去の四半期別傾向 売上高



2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期	
通期売上: 29,452百万円		通期売上: 28,871百万円		通期売上: 36,025百万円	
上期: 58.6%	下期: 41.4%	上期: 41.7%	下期: 58.3%	上期: 44.3%	下期: 55.7%

2-4 過去の四半期別傾向 営業利益



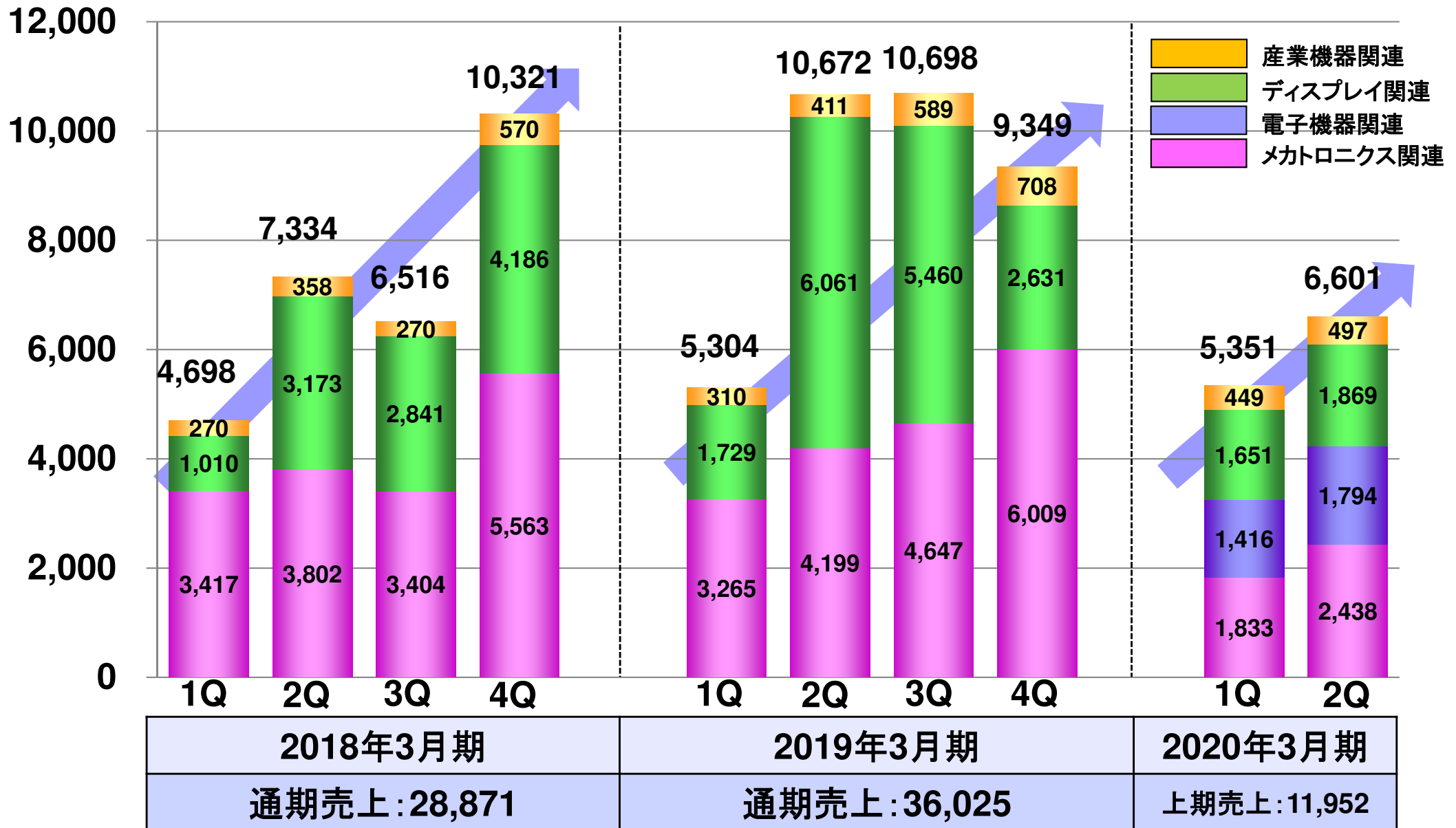
2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期	
通期営業利益: 1,036百万円		通期営業利益: 1,074百万円		通期営業利益: 1,842百万円	
上期: 56.3%	下期: 43.7%	上期: 21.8%	下期: 78.2%	上期: 17.7%	下期: 82.3%

2-5 事業別四半期毎 売上高



売上高

(単位:百万円)



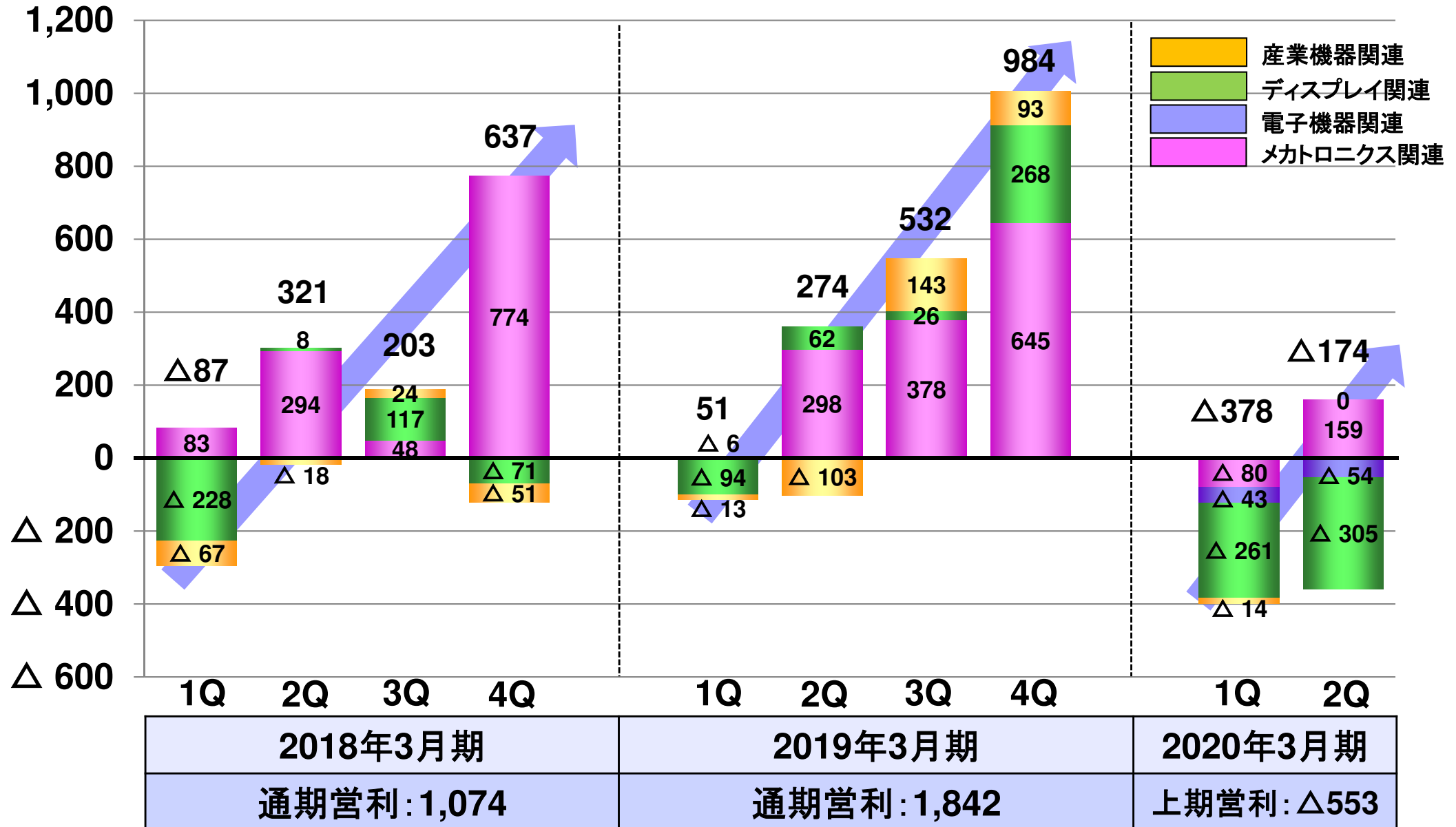
※ 2019年3月期以前は「メカトロニクス」「ディスプレイ」「クリーニングその他」の3セグメントによる実績

2-6 事業別四半期毎 営業利益



営業利益

(単位:百万円)



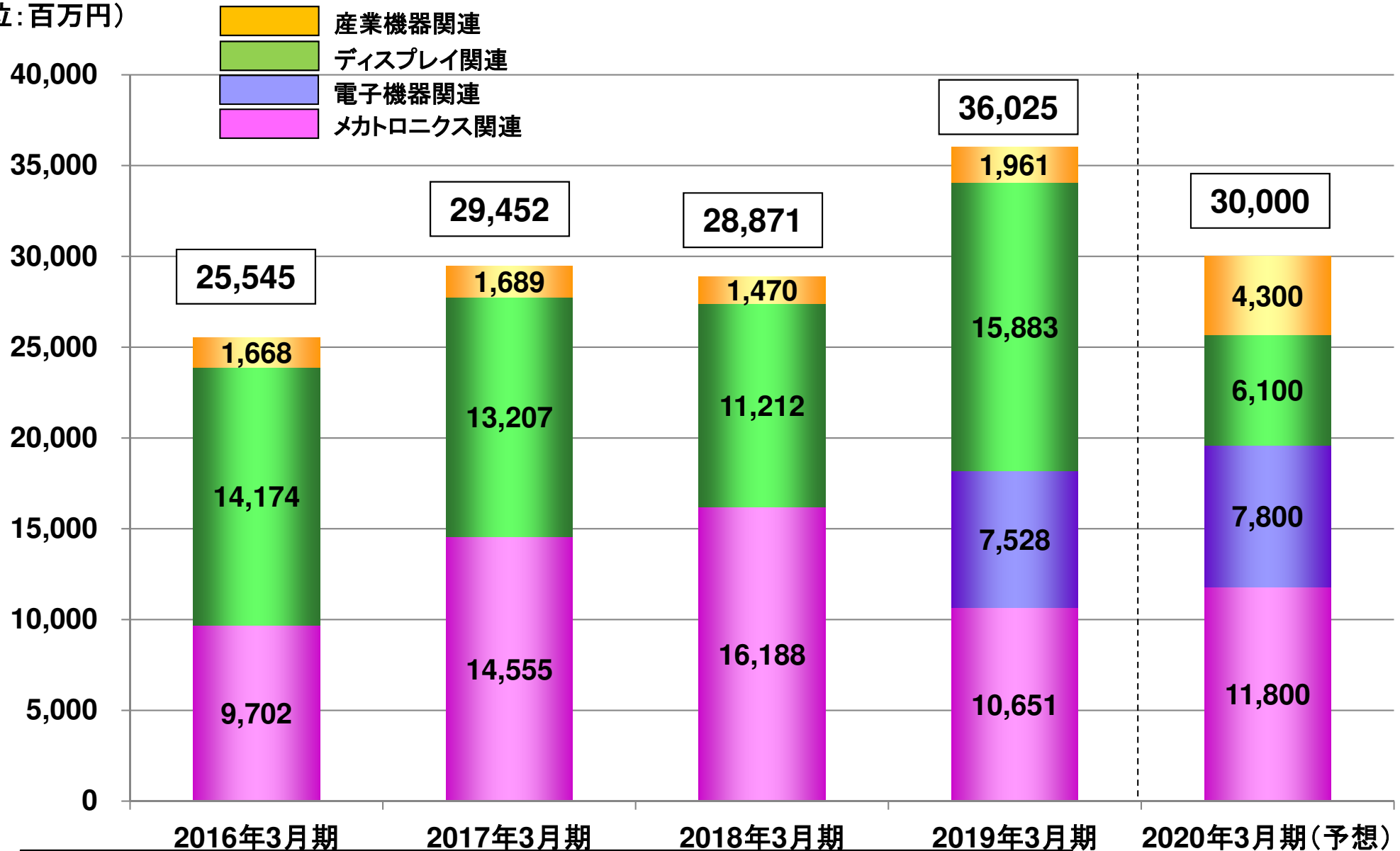
- 産業機器関連
- ディスプレイ関連
- 電子機器関連
- メカトロニクス関連

※ 2019年3月期以前は「メカトロニクス」「ディスプレイ」「クリーニングその他」の3セグメントによる実績

3-1 事業別実績及び見通し 売上高



(単位:百万円)



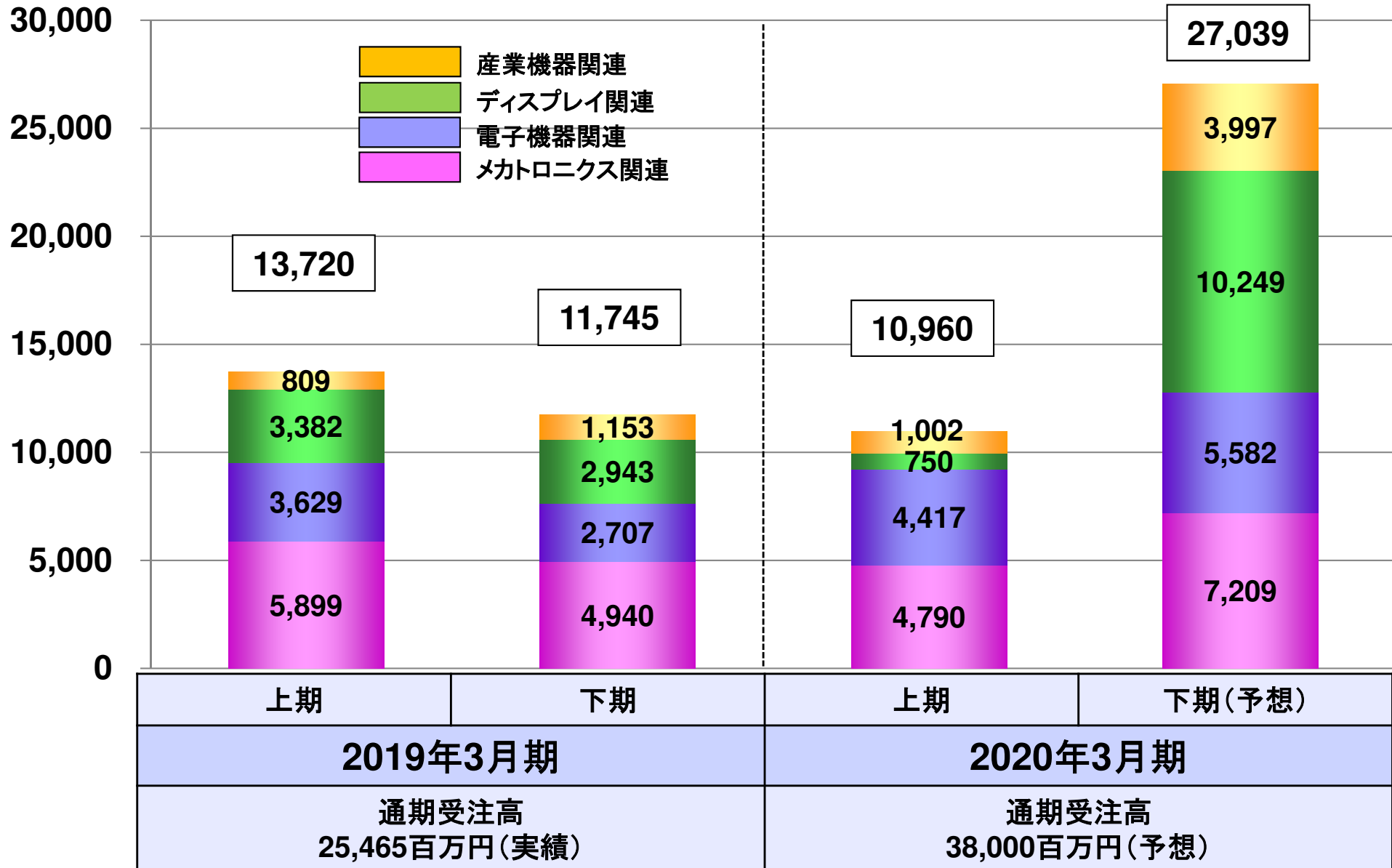
※ 2018年3月期以前は「メカトロニクス」「ディスプレイ」「クリーニングその他」の3セグメントによる実績
 ※ 2019年3月期は現在の4セグメントに合わせて再集計しています

3-2 事業別実績及び見通し 受注



(連結ベース)

(単位:百万円)



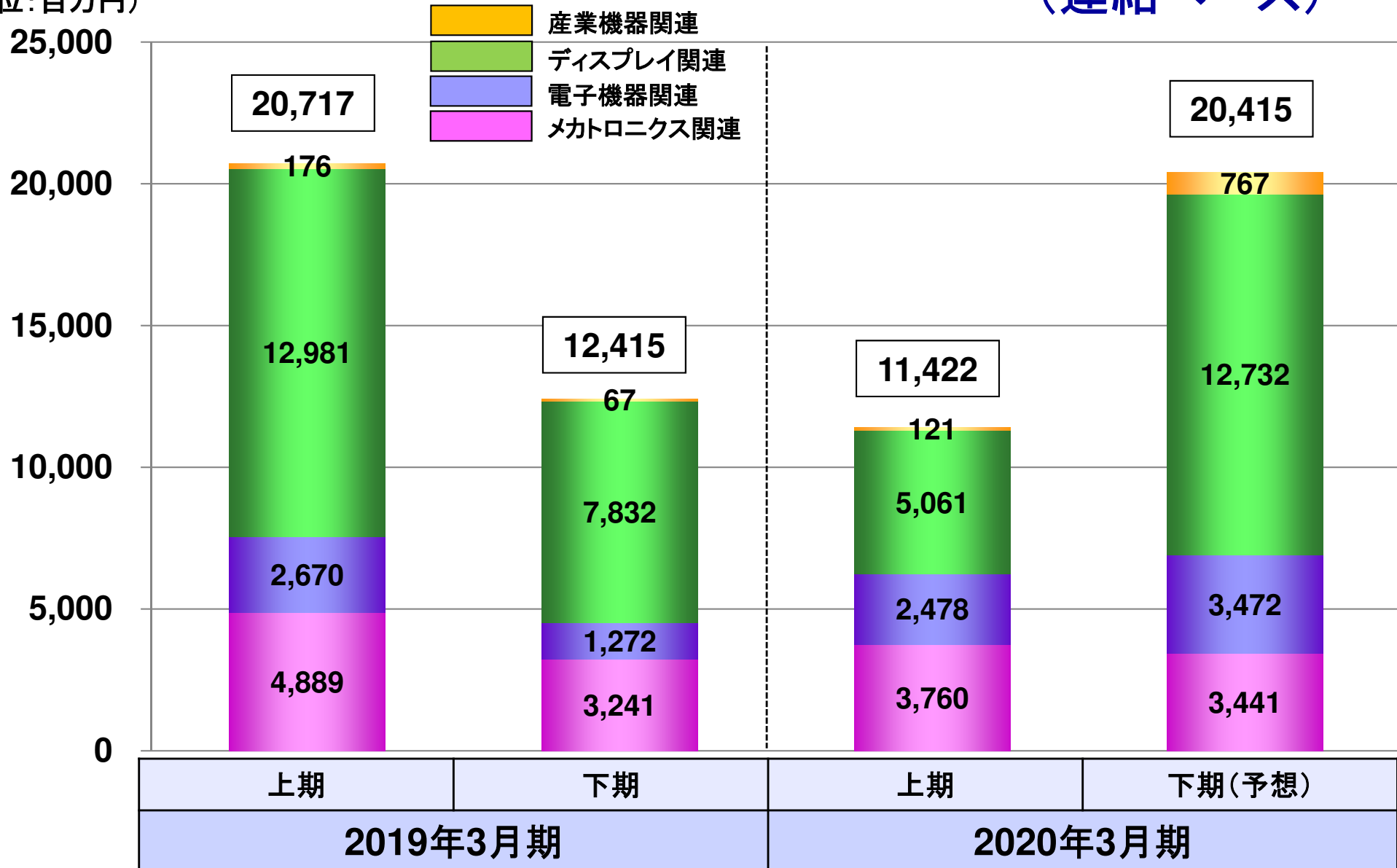
※ 現在の4セグメントに合わせて実績を組み換えて表示しています

3-3 事業別実績及び見通し 受注残



(単位:百万円)

(連結ベース)



※ 現在の4セグメントに合わせて実績を組み換えて表示しています



2. ワイエイシイグループの今後の展望

…………… 代表取締役社長 百瀬 武文

4-1 過去の業績と今後の見通し

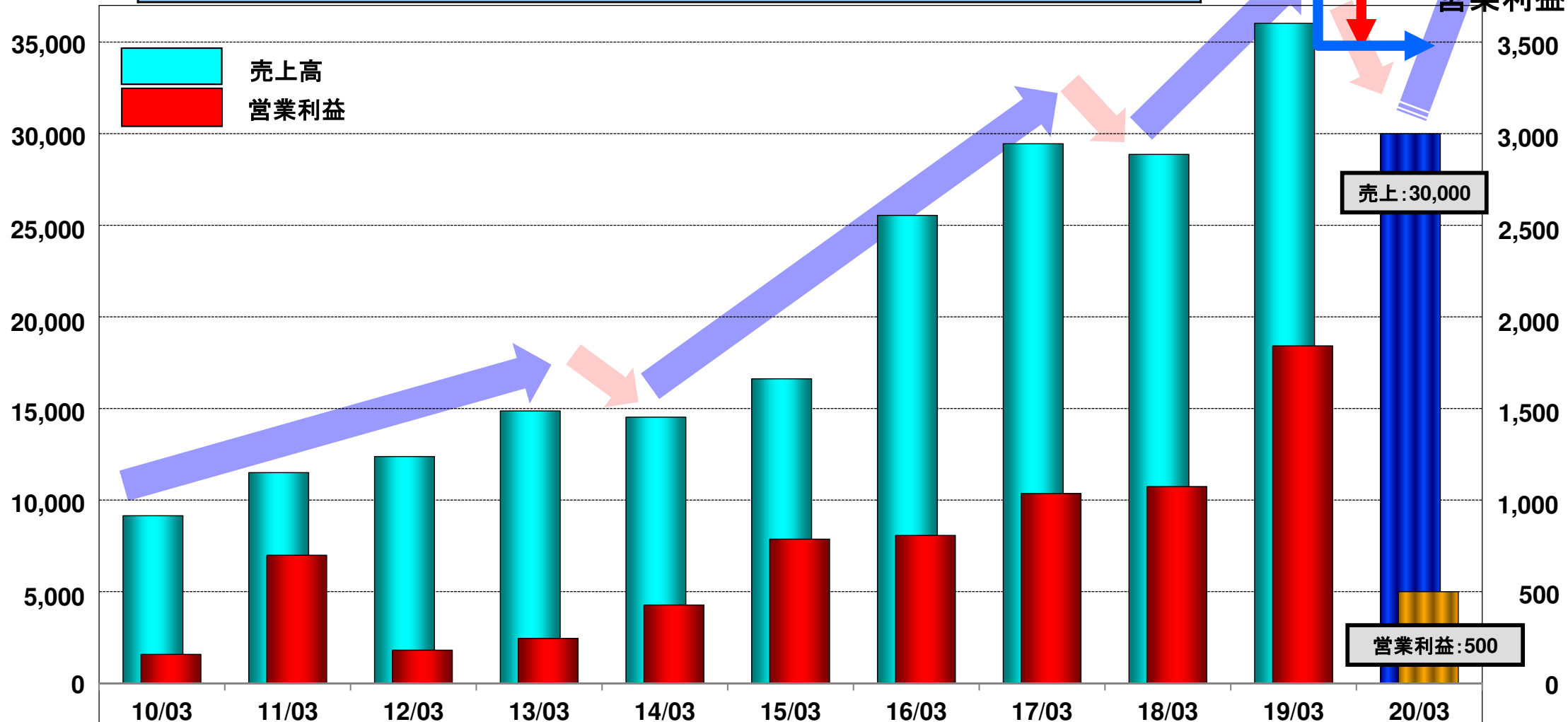


1. 足元は米中貿易摩擦の影響を受け、大変厳しい状況

2. 今後は5G関連、医療関連、中国市場、IoT関連により、全ての事業でビジネスチャンス

(単位:百万円)

売上高



営業利益

売上: 30,000

営業利益: 500

4-2 ワイエイシイグループの今後の展望



1. 5G(第5世代移動通信システム)関連の需要拡大

用途	製品	関連セグメント
①スマートフォン用OLED	エッチング装置・アニール装置	ディスプレイ
②電子部品・ディスクリート	選別機・テーピング機・キャリアテープ	メカトロニクス
③パワー半導体(Si-IGBT、SiC)	レーザアニール装置	メカトロニクス
④MEMSセンサー	イオンミリング装置	メカトロニクス
⑤高速通信デバイス	セラミックパッケージ切断機	メカトロニクス
⑥データセンター	HDDバーニッシュ装置	メカトロニクス

2. 医療関連の需要拡大

医療機関、個人向け	人工透析装置	電子機器
-----------	--------	------

3. 中国市場の拡大

①ホームクリーニング・リネン	各種仕上げ機	産業機器
②中国合弁会社を通じて、当社グループのオリジナル製品各種を中国に展開(RFIDなど)		全セグメント

4. IoT市場の拡大

①電力会社	監視・保守業務の自動化装置	電子機器
②データビジネス	各種自動化装置	全セグメント

売上高1,000億円の早期達成

■ 目標達成への基本戦略

1. 企業規模の拡大

- (1) 量産新製品の早期事業化
- (2) 既存製品のシェアUP、
消耗品・サービスの拡大
- (3) M&A・アライアンスの推進

2. 企業体質の向上

- (1) 高収益体質の確立
 - ①粗利率UP
 - ②既存事業・技術の横展開
- (2) 財務体質の強化
 - ①売掛金の早期回収
 - ②資本金の増強
 - ③キャッシュフローの健全化

3. グループガバナンスの強化

- (1) ビジネスユニット制
- (2) 中長期戦略経営
- (3) 全員経営・連携と競争

4. SDGsへの取組



さあ今日も、

ときめきと感動の日々であれ！

数字の処理について

記載されている金額は百万円未満を切り捨て、その比率については小数第2位を四捨五入しています。

しなやか先端技術企業集団
ワイエイシーグループ